

## 38. 「親としての気付き」

2011年7月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私たちは親として子どもの成長を見守っていますが、その中でどんなことに気づかされるのでしょうか。自分は親として非の打ちどころがなく子どもにとってとても良い親であると確信できる方はいるのでしょうか。多くの方は、子どもにとって自分は本当によい親なのだろうかと、迷い、悩まれている方が多いのではないのでしょうか。私も自分の子どもを良く支えてきたということは絶対に言えません。そうではなく間違いだらけで、こんなことをしてしまったということの方がとても多いのです。あのようすべきだった、こんなことはしてはいけなかった、どうしてあんなことを言ってしまったのか、等、後悔することの方がとても多いのです。それでもこのようにすれば良いということ等、自信をもって言うことはできません。迷いながら、妻と相談し、時には言い争いをしながら、悪戦苦闘している状態が未だに続いています。そんな中で気付くことは子どもたちの命を守る、支えて行かなければという親としての気持ちに気付かされます。

しかし幼い子供たちは、このような私たち親を無条件に信頼しきっています。親が喜んでくれることを、親の笑顔が自分の心の栄養になっていることを。そして無条件に私たちに「大好き！」という気持ちを表現してくれているのです。時には泣き叫んだり、悪戯をしたり、言うことを聞かず、困らせてばかりいるということがあるのですが、それが本来の子ども姿であると勘違いしてはいけません。子どもたちは心から私たちに信頼し、自分の親を愛しています。これには何の説明の必要はありません。真実であり、そのように生かされているからです。

親として自分は子どもたちから愛されているということを私たちは忘れていきます。子どもが泣き叫ぶのは自分の親を思う気持ちに不安があるからです。その不安を抱き締めて取り除いてあげればよいのです。悪戯はいつも一緒にいたいという子どもたちの思いです。この子どもたちの心に応えてあげる親でありたいと思います。子どものために何かをするというのではなく、時々優しく子どもの目を見て「君は大切な私の命だ。」と自分の心に言い聞かせることです。

正しい親になる必要はないと思います。間違いだらけで、失敗だらけで、親であることに自信がなくても、子どもたちは私たちに掛け替えのない、大切な存在として私たちに愛してくれています。子どものために心を尽くして毎日を元気に生活することが一番大切なことなのです。子どもを厳しくしつけるのではなく、子どもの心がどんなに私たちに愛しているかということに気づき、それに親として素直に「ありがとう。」と答えてあげれば十分に良い親御さんなのだと思うのです。



### 《厚揚げゴマ煮》

#### 材料 5人分

生揚げ大 1枚 200g  
砂糖 大さじ1強  
みりん 小さじ1  
醤油 小さじ2強

#### 作り方

- ① 生揚げは食べやすい大きさ1口サイズに切る。
- ② 鍋に調味料類を入れる。
- ③ ②に生揚げを入れて煮る。  
(水を入れて濃度調節して下さい。)
- ④ 味がしみたらできあがり。

